

令和3年度 学校経営方針

練馬区立光が丘夏の雲小学校
校長 牧野光洋

1 学校の教育目標とめざす児童像

(1) 教育目標

- 進んで学び 深く考える子供
- 思いやりをもって行動する子供
- 体をきたえやりぬく子供

(2) めざす児童像

- 勤勉な子供
- 他者を思いやる子供
- 夢を育む子供
- ルールを守り、礼儀正しい子供

2 基本方針

教育活動の中心に子供をとらえ、その人権を守り、尊重した教育を推進する。教職員は日々、研鑽に励み、専門性の習得、資質の向上、総力をあげ信頼される学校づくりをめざす。全ての教育活動を推進の中、教育目標の達成とめざす願う児童像の具現化に努め、「子供一人一人の秘めている可能性を引き出し、子供の夢を育む学校・力を伸ばせる学校づくり」を目指し、「恕の心」をもって優しい言葉で伝え合う学校づくりを進め子供に夢を与える職員体制を「一人一改革」の中で整える。

(1) 人権を尊重する教育

- ・ 個人情報保護（家庭・地域との連携の強化、ICTも含む）
- ・ いじめの未然予防・早期発見・早期解決を図り、子供を守る。
- ・ 児童理解に努め、子供に心より寄り添い、不登校・不応答など0（ゼロ）をめざす。「子供の幸せ」を願い、その願いに立つて計画・実践・評価、改善を推進する。
- ・ 優しく美しい言葉遣いを指導し、言葉による暴力等の根絶をめざす。

(2) 子供に夢を与える。

- ・ 全教職員が心身ともに健康であり、教師自らが夢をもち、努力する姿を見せ与える。
- ・ 使命感に燃え一丸となる教職員集団を形成する。
- ・ 組織体として指導にあたり、家庭・地域と共に夢を注ぐよう協働する。
- ・ 一人一人の個性を尊重しながら「知・徳・体」の調和のとれた子供を育成する。
- ・ 一人一改革（教師力を高める）を目標に教師として自己研鑽を積み専門性・人間性を高める。

(3) 幼保小中連携として、15カ年を見通した教育に努める。

- ・ 接続のポイントを探る。（教科等縦断的・横断的な視点で授業内容、指導方法を把握する。）
- ・ 保育園、幼稚園の教員連携・交流を図り子供が充実した学校生活を送れるように努める。

3 本年度の重点事項

テーマ（「恕の心」を育て、美しく優しい言葉遣いで伝え、伝え合う）

(1) 子供の一人一人の可能性を引き出し伸ばす学校づくり、個性を生かす指導を実践する。

【練馬区教育振興計画における「みどりの風吹くまちビジョン」を踏まえて】

- ・ 『コミュニケーション能力の向上、児童理解』
児童理解を充実させ、児童の良さや個性・特性を見出して多方面から情報を摂取する。児童と接する機会を多くもち、伸張させる。
- ・ 『体験的な学習』
異年齢集団学習体験・年齢に適応した体験的学習の機会を通し、互いに認め、高め合う経験の場づくり多様な人間関係を育てる。
- ・ 『言語表現活動』
各学年・学級では特色ある教育活動（自ら考え、学び、調べ、伝え、そして他者に伝わる表現力・言語力を育て生かした）を工夫し、自立する児童を育成する。
- ・ 『自律』
きまりを守ることの意義を理解させ、自らを律することのできる児童を育成する。
- ・ 『キャリア教育の充実』
生育段階に応じたキャリアプランを捉え、充実を図り、自分で課題を見出し、挑戦する積極性を育成する。
- ・ 『情緒教育の推進』
学芸会、音楽会、ミニコンサート、音楽集会、学校展覧会等の取り組みを通じて、豊かな情操教育を育み心に潤いをもたせる教育の実践。
- ・ 『支援教育の理解と充実』
特別支援教室（ひかりルーム）を基盤に支援や配慮を要する児童に対し、巡回指導教員、特別支援教育専門員、特別支援教育コーディネーター、特別支援教育校内委員会を中心にスクールカウンセラー、心のふれあい相談員を活用し、更に全職員が共通認識に基づいたきめ細やかな指導を徹底する。
- ・ 『ICT教育の推進』
タブレット端末・ICT教育機器を活用して、未来を見すえた学習活動を行う。

- (2) 授業力を高め、わかる授業を実践構築する。
 - ・ 授業時数の確保（授業時間の始終時刻の厳守、普通教室から特別教室間等への移動時間を考慮した意識の高揚を図る。）
 - ・ 「年間指導計画・評価計画」に基づく確かな学力の定着を図るための各教科の授業時数を確保し、授業規律の確立、児童一人一人が意欲をもって取り組める習慣を身に付けさせる。授業時間の始終、時間のけじめから学校生活全体の規律観を意識向上させる。
 - ・ 基礎・基本を定着させ、課題に正対する姿勢を育てる。自分の考えを的確に伝える力を身に付けさせ児童一人一人に寄り添い、個々の学力の定着、学力向上を目指した学習支援に取り組む。
 - ・ 評価の観点を明確に提示し、学習目標を設定させ児童の学習意欲を引き出す。
 - ・ 児童に魅力を感じさせる授業を構築・向上するために研鑽する。（若手育成・自己研鑽）
 - ・ 特別の教科「道徳」、外国語活動、外国語教育の充実（ALTとの連携）
- (3) 全教職員の連携・協力を図り、OJTを駆使した学校組織の活性化を推進する。
 - ・ 校務分掌組織の業務を明確にし、教職員一人一人が自己責任を果たす。
 - ・ OJTの推進による校内研修体系の見直しを図り、組織を活性化する。
 - ・ 機能的に職務に取り組むよう各部・各係間の連絡・連携を密にして、互いに協力する。
 - ・ 諸会議の運営にあたり、運営委員会の充実を図り議事進行の効率化を推進する。
 - ・ 各研修の充実を図り、研究授業・公開授業を提供し、教員研修の一端とし、組織的指導力の向上を図る。
- (4) オリリンピック・パラリンピック教育の推進
 - ・ 各教科、領域の学習に関連し、大会の価値、意義を学び児童自ら関わる意欲を高める。アスリートとの交流も復活させ、目標に向けて努力する姿を学ばせる。
 - ・ 国際理解・人権教育に関わる活動、道徳教育推進教員・ALTとの連携を密にして人権教育・外国語活動を推進していく。
 - ・ 体育的な活動および食育の充実、心身の健康と基礎体力の向上を図る。
 - ・ パラリンピック種目の観戦を通して、障害のある方との交流を図る。
- (5) 幼・保・小・中連携を通じて、流れのポイントを探る。
 - ・ 練馬区の施策事業として、小中連携の責務を自覚し、推進する。加えて幼稚園、保育園との連携も深め授業の流れを中心に幼保小中15カ年を見通して取り組む。小中相互の授業研究等を実施する。可能な限り、保育園、幼稚園に訪問する。
 - ・ 異年齢集団での活動「なつくもスマイル」や「運動会」「学芸会」等の行事を通して互いを認め合う思いやりと尊敬・感謝の心を育む。
 - ・ 中学校の生活体験や紹介を通して、中学校生活への興味・関心を高めさせる。
- (6) 安全・安心で豊かな心を育む学校をつくる。
 - ・ **家庭との連携**
「優しい言葉、美しい言葉遣い」「挨拶」を基本として「怒の心」が伝わる学校づくりに努め、優しく、美しい言葉遣いを推進し、教職員と児童、児童と児童間で、心の交流に努め、豊かな心を育む。更に、家庭教育の一環としても推進していただく。
 - ・ **情報の共有**
相談体制を充実させ、児童一人一人、保護者の悩みや思いを把握し、問題行動等の未然防止や早期解決を図り、児童を守る。
 - ・ **未然防止**
校舎内外の緑化活動、校内や通学路等の危機管理を把握徹底し安全性の向上に努める。情報源を豊かにして危機管理と情報管理を徹底、適切な対応をとる。
 - ・ **危機意識**
「報告、連絡、相談」を徹底し教職員間の連携を密にし、災害・事故等への適切な対応ができる校内体制および教育計画の再確認と常時改善を確立する。更に、いじめ、事件・事故等の事案に対し正対し正確な事実の時系列を記録する。早期対応・解決に取り組む。避難拠点連絡会との連携を密にして、児童の安全を地域全体で見守り危機意識を高める。
 - ・ **個人情報等の管理の徹底**
情報の管理を徹底すると同時に、その取り組みを保護者、地域に周知する。
 - ・ **会計管理**
厳正に当たり、常にコスト意識をもつ。
- (7) 服務事故0を目指しサービスの厳正・信頼される学校づくりに努める。
 - ・ 児童・保護者・地域との信頼関係に基づいたサービスを遂行する。
 - ・ 教育の専門職として自己研鑽に励み、教師としての資質向上を常に心掛け、保護者、地域からの信頼を得られる教育実践を積み重ねる。
- (8) 家庭・地域社会との連携を深化する。
 - ・ 教育活動を地域や保護者に、その教育活動の内容や児童の状況について学校だより、ホームページのこまめな更新、タブレット端末の通信機能を生かすと共に、各学年だより、学級だより等を通して、保護者などに積極的に告知し透明性及び信頼を高める。
 - ・ 保護者からの要望等に対しては、誠意をもって組織的に速やかに対応する。
 - ・ 教育活動に関し、必要に応じて保護者や関係諸機関などのと協働する。
 - ・ 学校評議員および保護者、地域への学校公開を常に基本とし、学校評議員会にて意見交流を重ね、学校評価や授業診断を行い学校力・授業力の向上を図る。